

「桜を愛でる」とはどういうことか？

2012年4月15日(日)

司会・文責：堀越

1. 概要；

- ・参加者 16 名を迎え、私達にとっての「桜」の意味、さらに「桜を愛でる」ことについて考え、議論した。

2. 議論；

- ・質問を分解して「桜はどういう意味を持つか」、「桜を愛でるとはどういうことか」について議論した：

(0) 桜は好きか？

- ・議論前に参加者全員に対して「桜が好きか」を尋ねた。「(桜ばかりを) 騒ぎ過ぎで、梅をもっと見よう」、「コミュニケーションに役立つとは思いますがあまり興味がない」との回答が二人いたが、他の多数は「好き」と回答。理由は大別をすると下記：

- ・綺麗である－(風に吹かれた)散り際、咲いている風景全体
- ・記憶と結び付く－個人の思い出、周囲や(別れを含む)自分の一年
- ・汎用性がある－全国何処へ行っても観賞可能
- ・連想させる－この世とあの世の堺、死に際、一面を覆われた際のトリップ、淡い色彩から人の肌、戦争

(1) 「桜」をなぜ綺麗と思うのか？

- ・好きな理由として「綺麗である」ことを挙げた人が多かったが、なぜそう思うのかを議論した。
 - ・自然に(生得的に)感じるのではないか。
 - 連想させなくても感じる
例；紙吹雪
 - ・文化的背景による刷り込みから、経験的に感じるのではないか？
 - 連想させるものから感じる
例：死、自己主張しない、パワーがある、能楽、特攻、春の始まり
 - ・この「綺麗と感じる」理由が生得(自然)起源か文化的背景(経験)起源かの議論は一旦保留とし、次の議論へ進行した。この綺麗という感情の起源の由来については別の機会に譲る。

(2) 「桜を愛でる」とはどういうことか？

- ・対象を「桜」とした場合の「愛でる」行為について、次の解釈が出た：
 - ・"何か"がある、隠されていると思う
 - ・気になる、気を揉むということであり、慈しむ
 - ・「後何回見られるのか？」と考えると数が有限であることに気付き、貴重で大切と思う
 - ・ある一定の距離を保ち離れながら、ネガティブには思わない
 - ・(他の草木とは異なり世話をすることはなく)自分は高い位置にいて思う
 - ・"桜＝群れ"から"個人 vs 他人"を連想させることから、他人のことを思う
 - ・"死"を結び付けて思う
- ・「何かを連想する」ことは経験的に発想することであろうが、「一定の距離感を保つ」という見方はどういうことか、どこから来ているのかをより深めたかったが時間切れとなってしまった。次の機会に譲りたい。

3. まとめ；

- ・"愛でる"という行為が「ある一定の距離感」に繋がるという見方は、テーマ提起者としては新鮮であり、さらに深掘りをしてみたいと思わせる発見であった。
- ・他にも、"綺麗/美しい"と感ずることが「生得的か」、「経験的か」などさらに深めたい疑問が提起されたが、次の機会に譲りたい。

以上